

平成30年度愛知県栄養教諭・学校栄養職員研究大会

平成30年8月28日（火）ウィルあいちにて研究大会が開催されました。

式典

愛知県教育委員会 保健体育スポーツ課 健康学習室 室長 加藤吾郎様はじめ、愛知県小中学校長会、公益財団法人愛知県学校給食会、愛知県高等学校給食研究協議会、愛知県特別支援学校長会など、多くのご来賓の皆様にお越しいただきました。



地区別研究発表

愛日西部地区（清須市・北名古屋市・豊山町・小牧市）

「食を大切に作る子の育成」

—学校・家庭・地域の連携による食育推進を通して—

学級の実態に合わせ、教科と関連させた「命」を実感させる指導の工夫や地元の特産物の収穫体験、郷土料理の学習等を通し、学校・家庭・地域を巻き込んで行った取組を発表しました。



丹葉地区（犬山市・江南市・岩倉市・大口町・扶桑町）

「朝食を食べる元気な子どもの育成」

—授業実践と啓発活動の取組から—

朝食の重要性と朝食内容の改善について、児童生徒の発達段階に応じ、教科等と関連させて行った指導や、保護者・地域への啓発方法を工夫した取組を発表しました。



指導講評

愛知県教育委員会 保健体育スポーツ課 健康学習室 主査 稲留雄一 様

研究を進めるうえでの重要なポイントや、今後、栄養教諭が学校で食育を進めていく際に必要な方策について、ご指導いただきました。

「栄養教諭が、学校で食育を進めていくには、学級担任に食に関する指導の必要性をしっかりと理解してもらい、実践してもらうことが重要である。『みんなができる。みんなでできる。無理なくできる。ずっとできる。』そんな食育を目指していくことが大切である。」など、食に関する指導と給食指導を連携させ、繰り返し、継続した指導の重要性についてご示唆いただきました。

栄養教諭に求められる資質「かきくけこ」

か…管理者 き…教育者 く…クリエイター け…計画者 こ…コーディネーター・コーチ

100人に1歩を踏みださせる。（担任みんなでプチ食育）←マネジメント力と工夫&理解が大切。

教育講演会

演題「学校がチームとして食育を推進するための具体的方途」

講師 国立大学法人 福岡教育大学大学院

教育学研究科教職実践専攻（教職大学院） 教授 脇田哲郎 様

これからの学校での食育の推進について、新学習指導要領の背景や、チーム学校としての栄養教諭の役割、「食育プランニングシート」を活用した授業構想など、新たな視点で分かりやすくお話ししてくださいました。

講演の最後には、子どもたちが学び合い、共に成長していく姿を写した感動的な映像をご紹介します。栄養教諭として、今後、学校で食に関する指導を進めていくうえで、大変参考になる学びの深い講演でした。



<ご講演を拝聴しての感想>

初めて、講演会で涙を流しました。学校教育の素晴らしさを、改めて感じることができました。先生が随所でおっしゃってくださった「人間関係を支えているのは食」という言葉が、とても印象に残っています。食育は学校経営で行っていくことや、特別活動でどのように食育を進めていけばよいのかなど、丁寧にお話しいただき、とても有意義な時間となりました。

ご講演を聞き、特に心に残り、実践しようと思ったことがあります。

学級活動のキーワード「意思決定」です。改定された学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善が求められています。私がこれまでに実施した指導では、「知識・理解」中心の指導が多くありました。そのため、児童は、正しい答えを分かっているが、自分自身と結びつかず「分かっているけど変えられない」状態から抜け出すことができなかつたのだと気付きました。

今後、授業後には、児童の様子を振り返りながら「主体的・対話的で深い学び」ができたかどうかの評価を必ず行い、児童が自分のこととして考えることができるような「かかわり合い」の時間を充実し、一人一人の課題を意思決定できるように改善し続けていきたいと強く思いました。

特別活動における「食育プランニングシート」を活用した授業構想についても教えていただきました。題材の設定から事前、本時、事後の振り返りまでの流れの考え方を整理できるので、担任と打ち合わせを行う時に、ぜひ活用していきたいと思えます。

展示・ポスターセッション

研究発表地区をはじめ、各地区の教材や取組の紹介、「愛知を食べる学校給食の日」のリーフレット、本協議会が作成した食育資料等が展示されました。今年度も、メモをとったり、興味深く質疑応答したりする会員の姿が見られるなど盛況でした。会員相互の交流や学び合いの場となりました。

